

岡山県感染症週報 2012 年 第 26 週 (6 月 25 日～7 月 1 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2012 年 第 26 週 (6/25～7/1) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 23 週 5 類感染症 後天性免疫不全症候群 1 名 (20 代 男)
- 第 25 週 2 類感染症 結核 2 名 (60 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
- 5 類感染症 アメーバ赤痢 1 名 (40 代 男)
- 第 26 週 2 類感染症 結核 4 名
(50 代 女 1 名、60 代 女 1 名、80 代 男 1 名、90 代 女 1 名)
- 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 5 名
(O157 : 幼児 男 1 名、10 代 男 1 名、20 代 男 2 名、60 代 男 1 名)
- 4 類感染症 レジオネラ症 1 名 (90 代 女)

■定点把握感染症の発生状況

- ヘルパンギーナは、3 週連続で増加しました。
- 感染性胃腸炎は、前週より減少しましたが、過去 10 年の同時期に比べ患者が多い状態がつづいています。

【第 27 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 60 代 女)
- 真庭市で集団かぜ (発熱・咳・咽頭痛・頭痛) による小学校の学級閉鎖が 1 校ありました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、今年は7月4日までに16名の発生がありました。このうち6月に11名の発生があり、今後も増加の可能性があります。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」発令し、注意喚起を図っています。例年7月・8月は、発生が多くなることから、さらに注意が必要です。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」、また、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. **ヘルパンギーナ**の定点あたり患者数は、3週つづけて増加しました。岡山県では過去10年の同時期に比べ、患者は少数で推移していますが、6月中旬から増加傾向です。これからが流行のピークになりますので、今後の動向に注意してください。詳しい症状などは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
3. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、わずかに減少しました(定点あたり6.76 → 6.09人)。ひきつづき過去10年の同時期に比べ、患者数が多い状態で推移しています。詳しくは『[感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。また、岡山県では「[食中毒注意報](#)」を発令し、食中毒予防を呼びかけています。
【お知らせ】今シーズンにおける定期的な感染性胃腸炎情報は、今週をもって終了いたします。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	⬇	
咽頭結膜熱	➡	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★★
感染性胃腸炎	➡	★★★	水痘	➡	★★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	★
突発性発疹	➡	★★★	百日咳	⬇	
ヘルパンギーナ	➡	★	流行性耳下腺炎	➡	★
急性出血性結膜炎	➡		流行性角結膜炎	➡	★
細菌性髄膜炎	➡		無菌性髄膜炎	➡	
マイコプラズマ肺炎	➡	★★	クラミジア肺炎	➡	

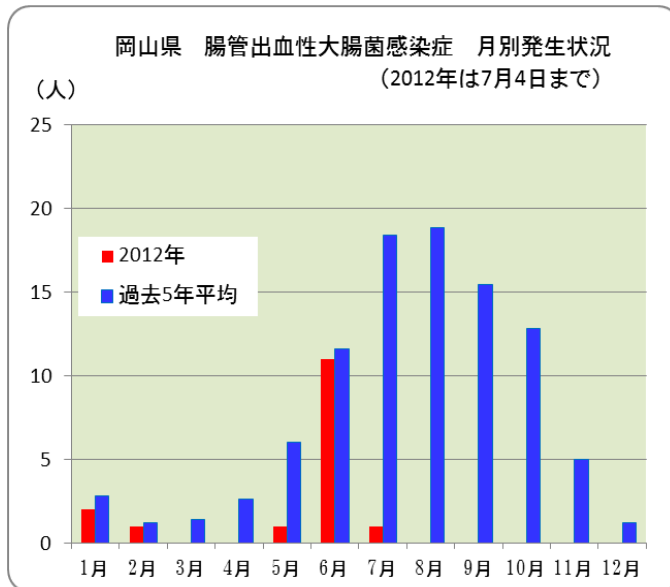
【記号の説明】

前週からの推移：
↓ : 2倍以上の減少 ↓ : 1.1~2倍未満の減少 → : 1.1未満の増減
↗ : 1.1~2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

発生状況： 空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い
※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 腸管出血性大腸菌感染症



腸管出血性大腸菌感染症が6月に増加しました。過去5年間の1月から6月までの平均発生数は26名であり、今年7月4日までに16名と例年に比べ発生が少ないものの、このうち11名が6月に発生し、第24週2名、第25週4名、第26週5名、第27週1名と4週連続で患者発生がありました。また、例年7月、8月は1年のうち最も発生が多くなります。岡山県は今後も患者増加がつつく可能性があることから、「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を県下全域に発令し注意喚起を図っています。

○血清群別ではO157が13件81%、O26が2件13%、O174が1件6%であり、O157が多く発生しています。

主な症状は、腹痛・水溶性下痢および血便で、嘔吐や38℃台の高熱をとともなうこともあります。今年、岡山県ではこれまでのところ、腸管出血性大腸菌感染症による死亡例はありませんが、80代で溶血性尿毒症候群(HUS)の症例1例が報告されています。子供や高齢者、抵抗力の弱いハイリスク・グループでは重症化しやすいので、特に注意が必要です。

腸管出血性大腸菌感染症は、通常の食中毒対策を実施することで十分に予防可能です。食中毒予防の三原則は「付けない、増やさない、やっつける」です。食品の取り扱いに注意し、食肉の生食を避ける、食品は10℃以下で保存し、加熱してから食べるなど感染予防に努め、安全で楽しい夏を過ごしましょう。また、腸管出血性大腸菌感染症は少量の菌で感染・発生するため、おむつや便の取り扱いに注意し、家庭内での二次感染にも気をつけましょう。

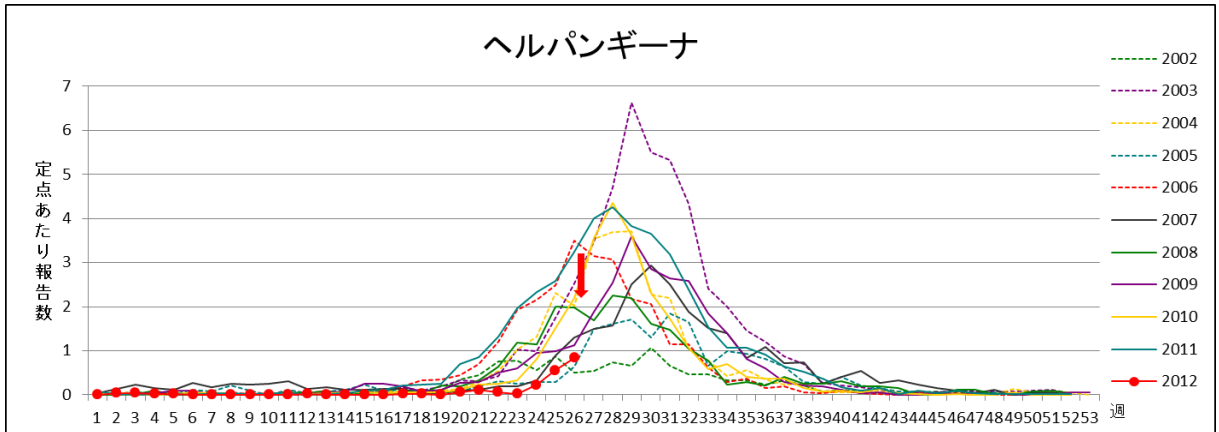
2. ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、定点あたり患者報告数が3週連続で増加しました（定点あたり0.22 → 0.56 → 0.83人）。

地域別では、岡山市（2.00人）、備中地域（1.43人）など県南部で患者が多く見られます。年齢別では0-3歳が、全体の約75%を占めており、乳幼児を中心に感染が拡大しています。

岡山県では、例年5月下旬頃から患者が報告され始めますが、今年は例年よりやや遅く、6月中旬から患者増加が始まりました。第26週現在、3週連続で患者は増加傾向で、7月から8月にかけてさらなる増加が懸念されます。今後の動向に注意して下さい。

保育園や幼稚園では集団発生する可能性もあります。うがい・手洗いを励行し、感染予防と感染拡大防止に気をつけましょう。



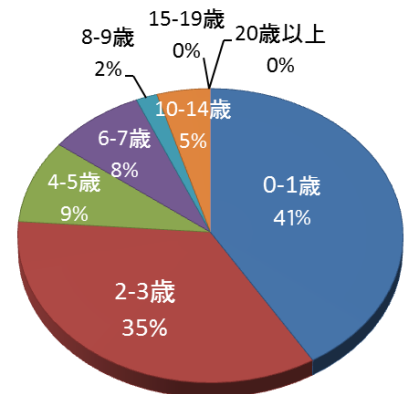
【ヘルパンギーナとは】

夏（7月頃）に流行する小児の急性ウイルス性咽頭炎であり、いわゆる夏かぜの代表疾患です。A群コクサッキーウイルスなどが原因となります。

【症状】

2~4日の潜伏期間のあと、突然の発熱につづいて咽頭の粘膜が赤くなり、口腔内の奥の柔らかい部分に直径1~2mm、大きいものでは5mmほどの赤い小水疱が多数出現します。小水疱はやがて破れ、痛みを伴います。発熱は2~4日程度で解熱し、口腔内の小水疱も消失します。予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんや髄膜炎を伴うことがあります。また、口腔内の小水疱が破れて痛みを伴うため、小さな子供では食べ物や水分が取りにくくなり、脱水症につながることもあります。

2012年 岡山県ヘルパンギーナ患者の年齢分布
(2012年 第1週~第26週)



【感染経路】

患者との濃厚接触による飛沫感染や、便の中に含まれるウイルスによる経口感染が主な感染経路です。症状が治まっても、2~4週間の長期間にわたり便からウイルスが排泄されることがありますので、オムツや便の取り扱いには注意が必要です。

【治療と予防】

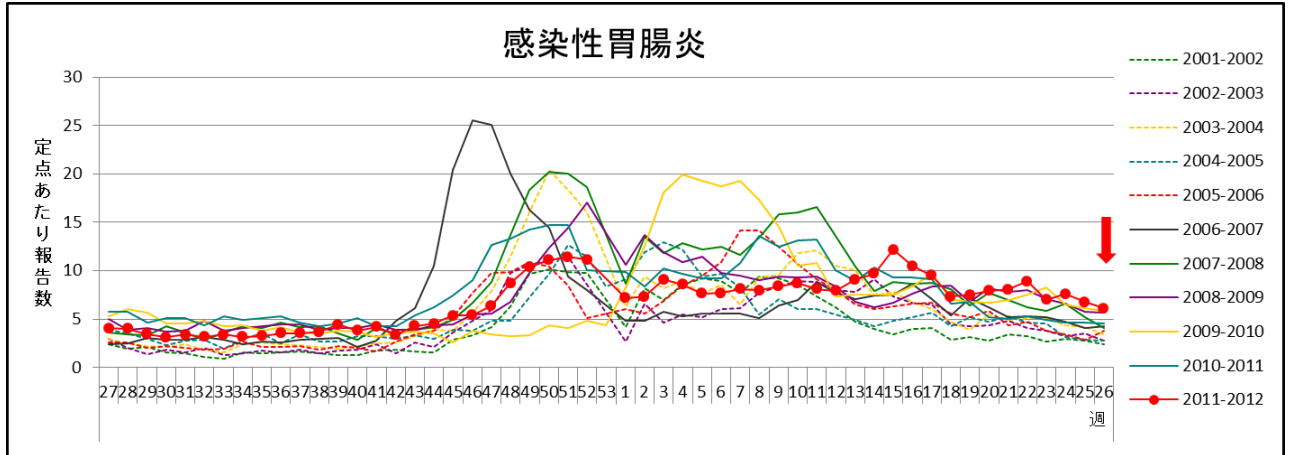
ウイルスに対する効果的な治療法はなく、対症療法のみです。ときには、脱水症に対する治療が必要なことがあります。

特異的な予防法はなく、患者との密接な接触を避ける、うがいや手指の消毒・手洗いを励行することで予防できます。

感染性胃腸炎情報 第 26 週 2012 年 6 月 25 日～7 月 1 日

【お知らせ】今シーズンにおける定期的な感染性胃腸炎情報は、今週(第 26 週)をもって終了いたします。

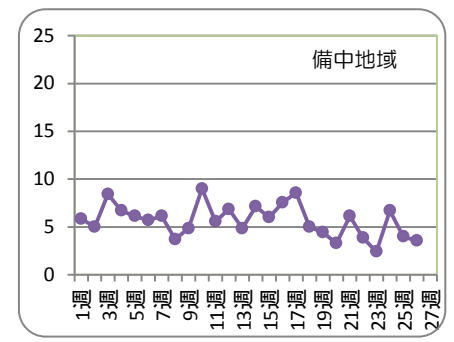
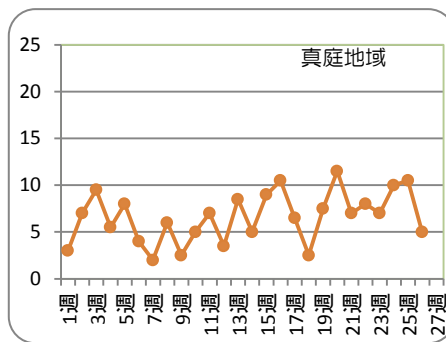
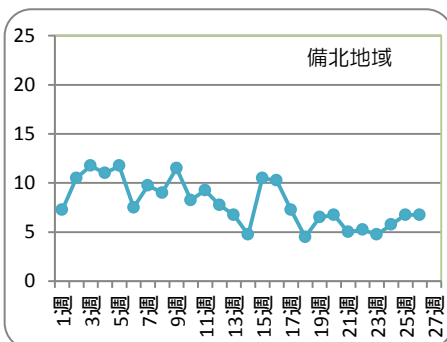
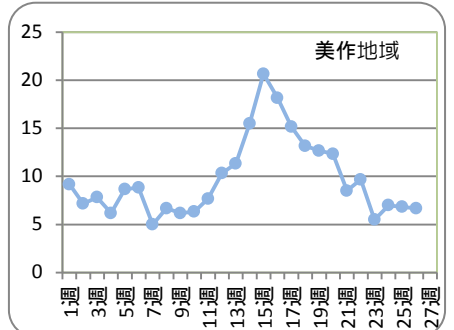
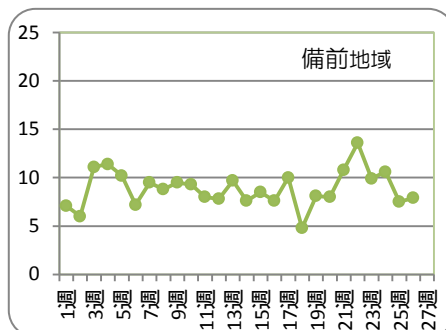
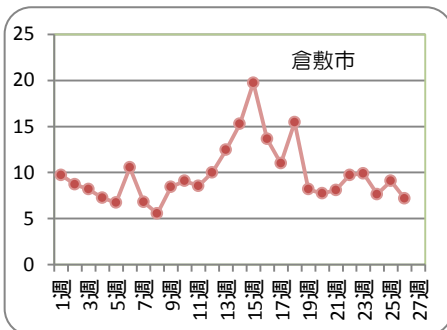
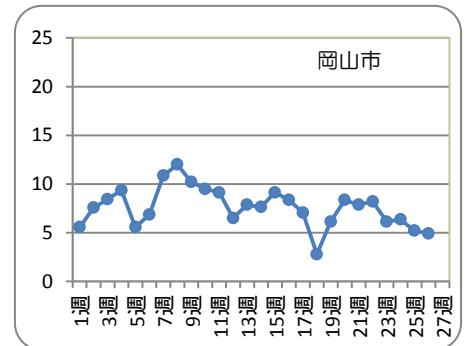
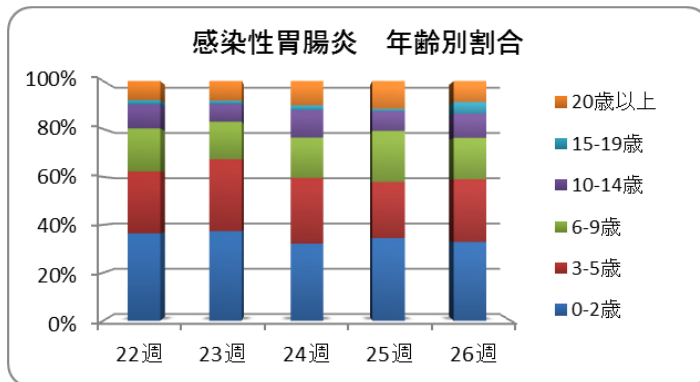
- 岡山県内の患者報告数は 329 名（定点あたり 6.09 人）で、前週よりわずかに減少しました。
- 過去 10 年の同時期に比べ、患者の多い状態で推移しています。



※感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週～今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎の定点あたり患者数は、前週よりわずかに減少しました（54 定点医療機関 定点あたり 6.76 → 6.09 人）。過去 10 年の同時期に比べ、患者の多い状態が続いています。患者の年齢分布は、0-5 歳の低年齢層に多く、この年齢層で全体の約 60% を占めています。全国でも過去 5 年間の同時期と比較してかなり多いと報告されており、注意が必要です。（[国立感染症情報センター 感染性胃腸炎過去 10 年との比較グラフ 2012 年第 24 週](#)）

梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。岡山県では「食中毒注意報」および「腸管出血性大腸菌感染症注意報」が県下全域に発令されています。手洗いを励行するなど感染予防に努めてください。



保健所別報告患者数 2012年 26週 (2012/06/25～2012/07/01)

2012年7月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	22	0.41	12	0.86	3	0.27	4	0.40	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	1.00	13	0.93	12	1.09	4	0.40	2	0.29	-	-	1	0.50	22	3.67
感染性胃腸炎	329	6.09	69	4.93	79	7.18	79	7.90	25	3.57	27	6.75	10	5.00	40	6.67
水痘	68	1.26	21	1.50	10	0.91	7	0.70	11	1.57	4	1.00	2	1.00	13	2.17
手足口病	16	0.30	7	0.50	2	0.18	2	0.20	5	0.71	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	6	0.11	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	3	0.75	-	-	-	-
突発性発疹	41	0.76	17	1.21	7	0.64	6	0.60	2	0.29	5	1.25	1	0.50	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	45	0.83	28	2.00	2	0.18	5	0.50	10	1.43	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	28	0.52	10	0.71	9	0.82	5	0.50	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	4	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	8	1.60	3	3.00	-	-	-	-	-	-	5	5.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 26週 (2012/06/25～2012/07/01)

2012年7月4日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-	-
咽頭結膜熱	22	0.41	12	0.86	3	0.27	4	0.40	-	-	1	0.25	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	1.00	13	0.93	12	1.09	4	0.40	2	0.29	-	-	1	0.50	22	3.67
感染性胃腸炎	329	6.09	69	4.93	79	7.18	79	7.90	25	3.57	27	6.75	10	5.00	40	6.67
水痘	68	1.26	21	1.50	10	0.91	7	0.70	11	1.57	4	1.00	2	1.00	13	2.17
手足口病	16	0.30	7	0.50	2	0.18	2	0.20	5	0.71	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	6	0.11	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	3	0.75	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	45	0.83	28	2.00	2	0.18	5	0.50	10	1.43	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	28	0.52	10	0.71	9	0.82	5	0.50	3	0.43	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	1	0.20	4	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第26週 2012/06/25～2012/07/01)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	22	-	3	5	5	3	1	2	1	-	2	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	-	-	1	4	1	3	14	5	5	6	1	14	-	-
感染性胃腸炎	329	7	19	48	34	32	27	27	16	18	11	12	33	16	29
水痘	68	2	3	11	12	10	7	9	4	2	-	1	5	-	2
手足口病	16	-	-	7	4	2	-	1	1	1	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	6	-	1	1	-	-	-	-	-	2	1	-	1	-	-
突発性発疹	41	1	20	19	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	45	-	1	16	9	8	5	-	1	3	-	1	1	-	-
流行性耳下腺炎	28	-	1	1	4	5	3	3	2	3	2	1	1	1	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	2	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	8	-	4	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

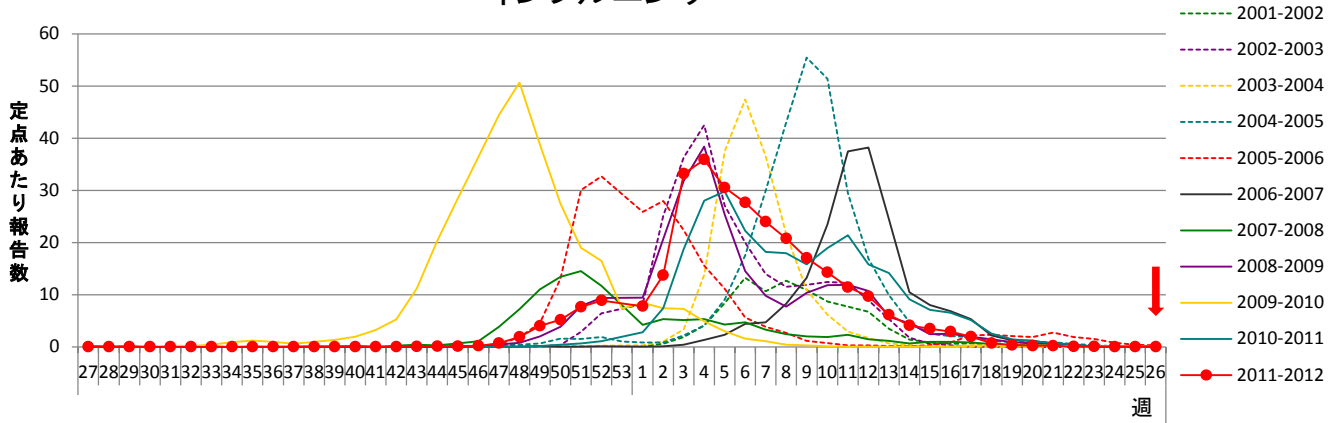
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

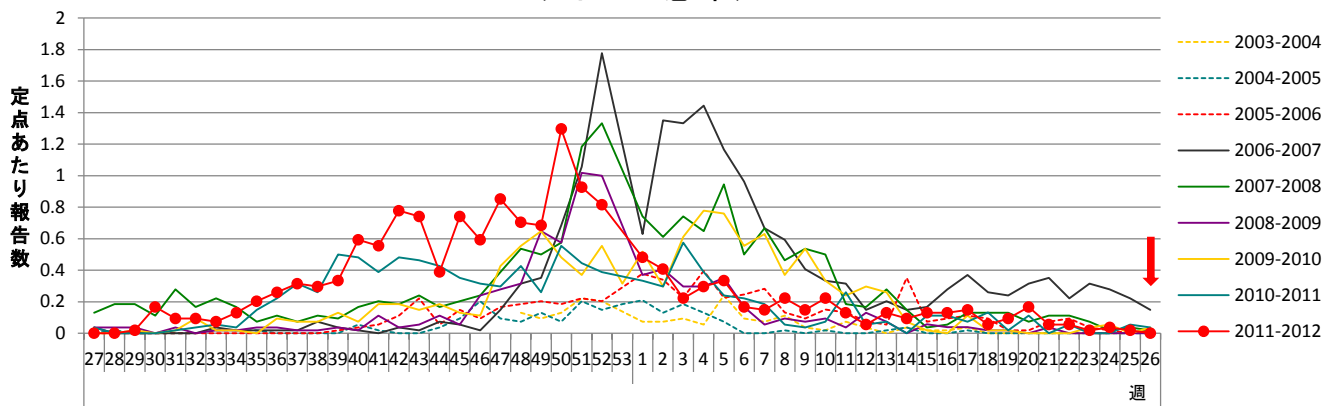
2012年 26週

分類	疾病名	2012			疾病名	2012			疾病名	2012		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	4	223	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	5	15	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	1	3	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	1	11	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	8	11	ウイルス性肝炎*3	-	3	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	8	15	ジアルジア症	-	1	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	2	9	破傷風	-	-	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	風しん	-	3	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

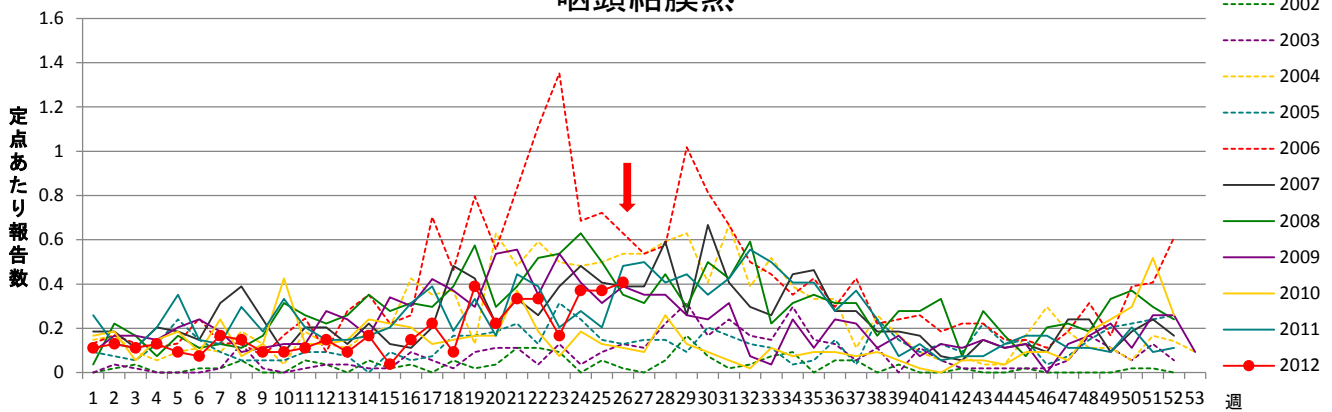
インフルエンザ



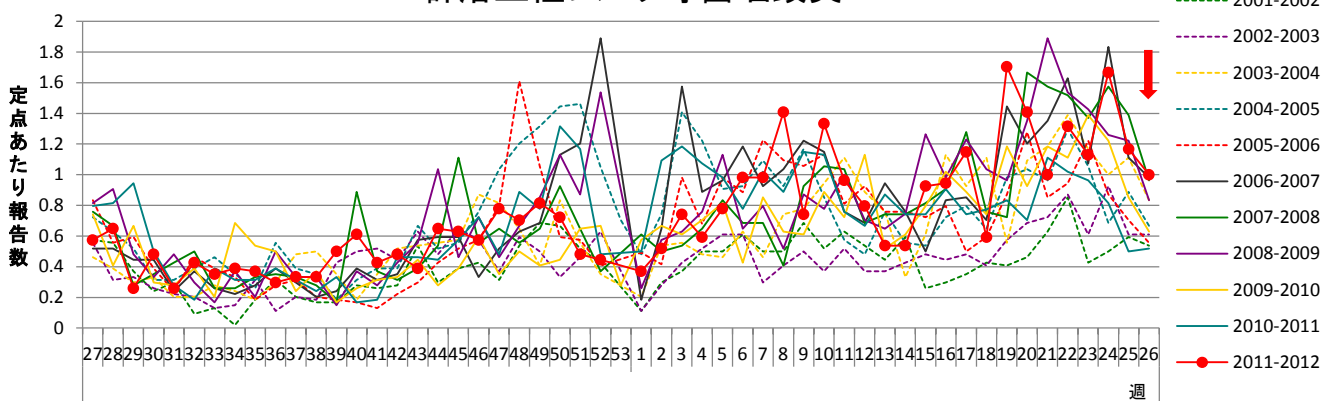
RSウイルス感染症



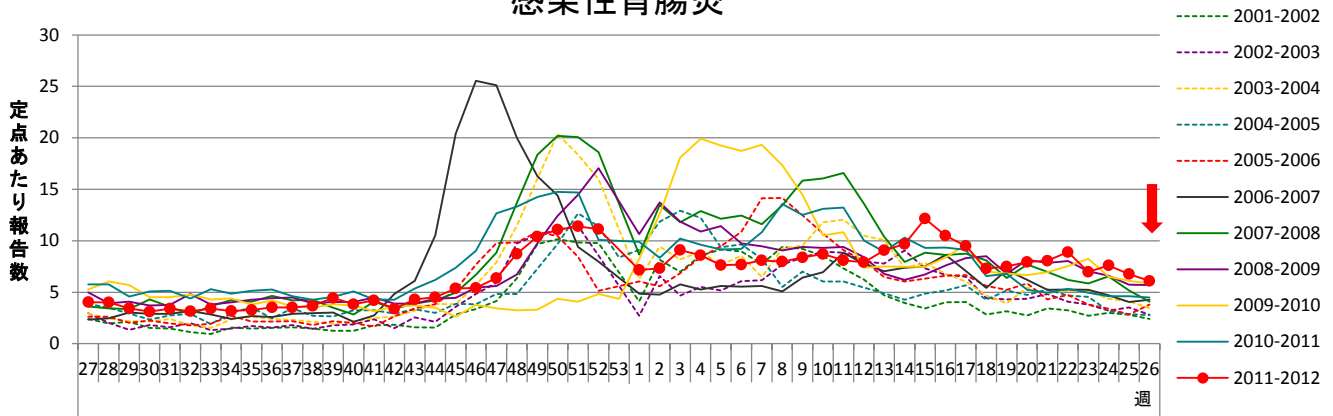
咽頭結膜熱



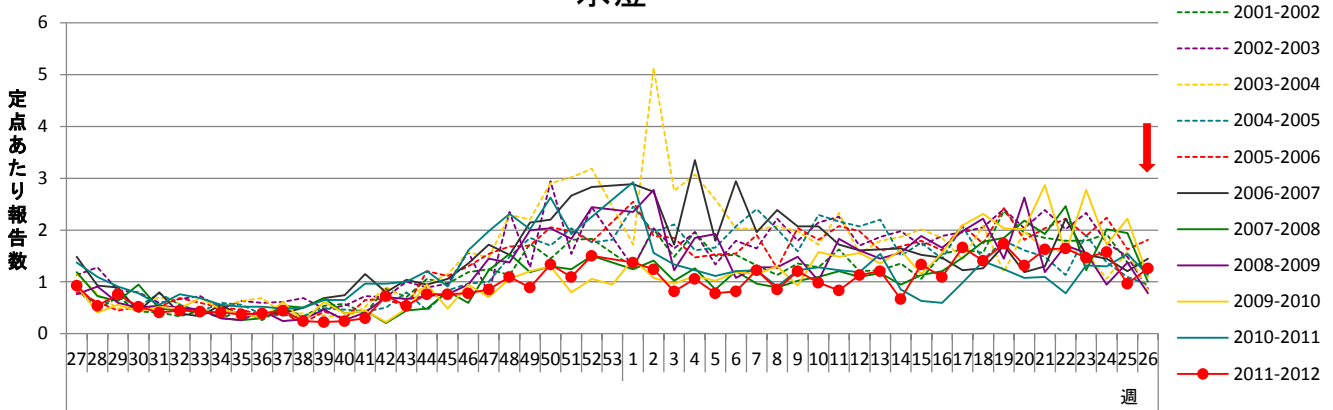
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



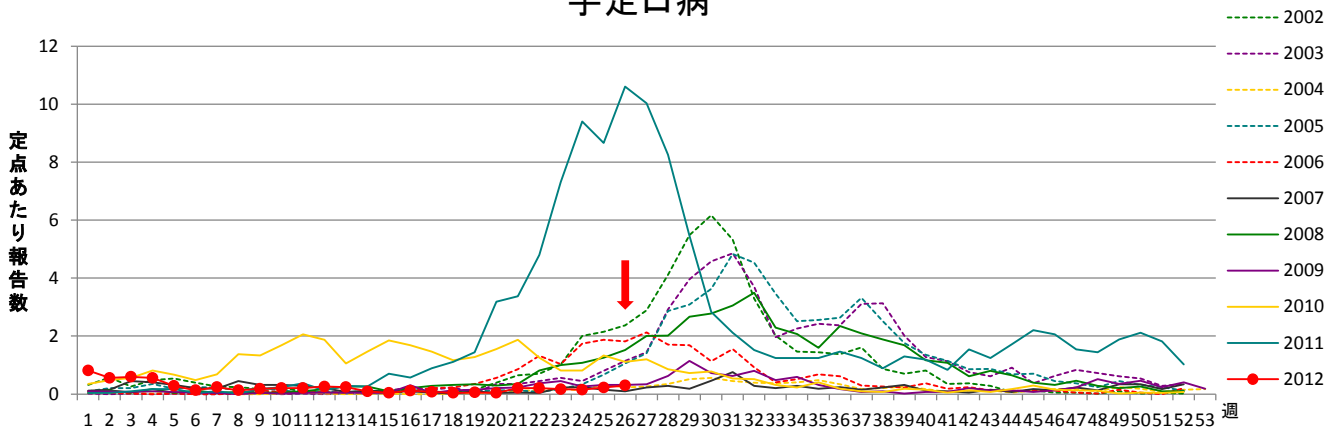
感染性胃腸炎



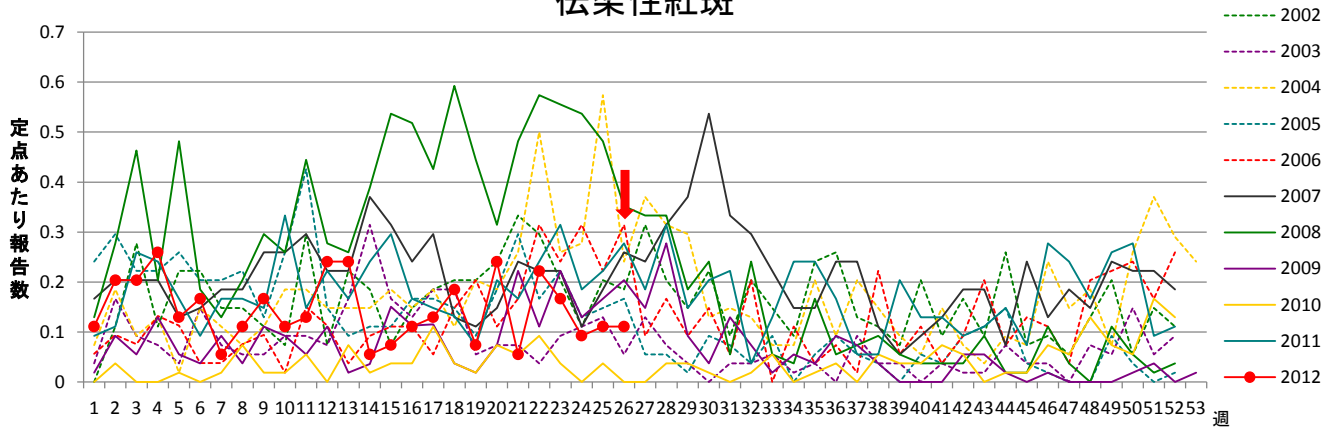
水痘



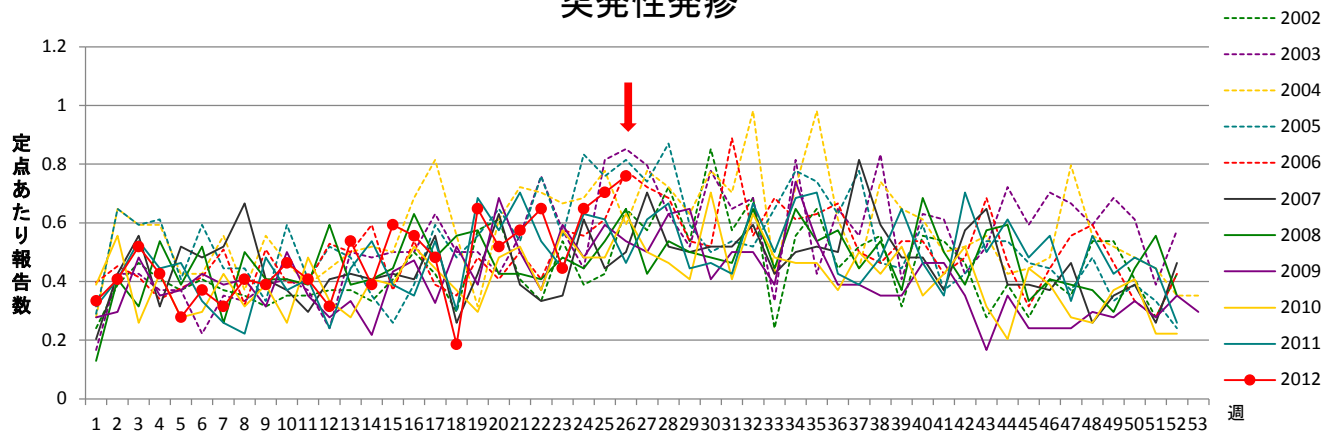
手足口病



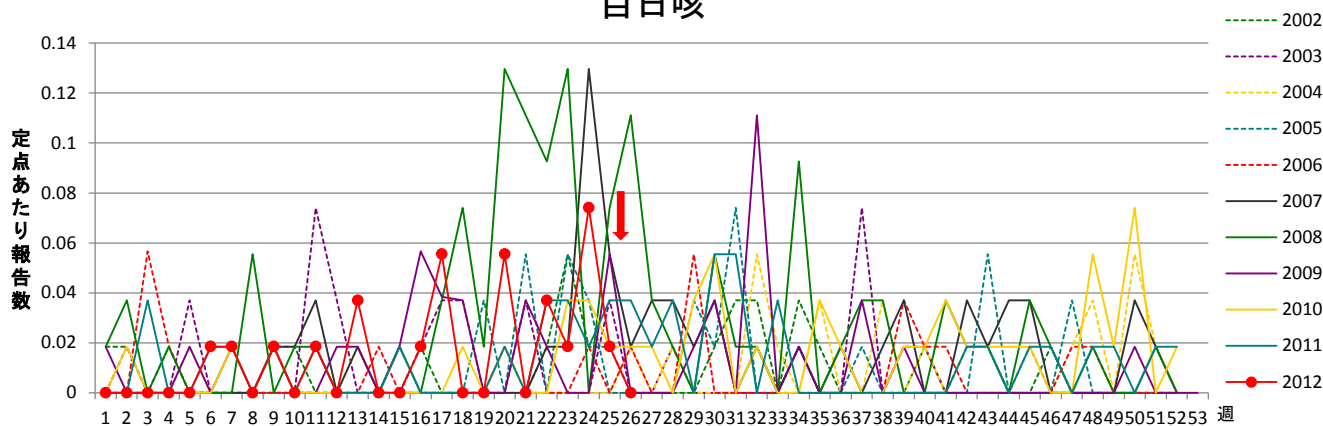
伝染性紅斑



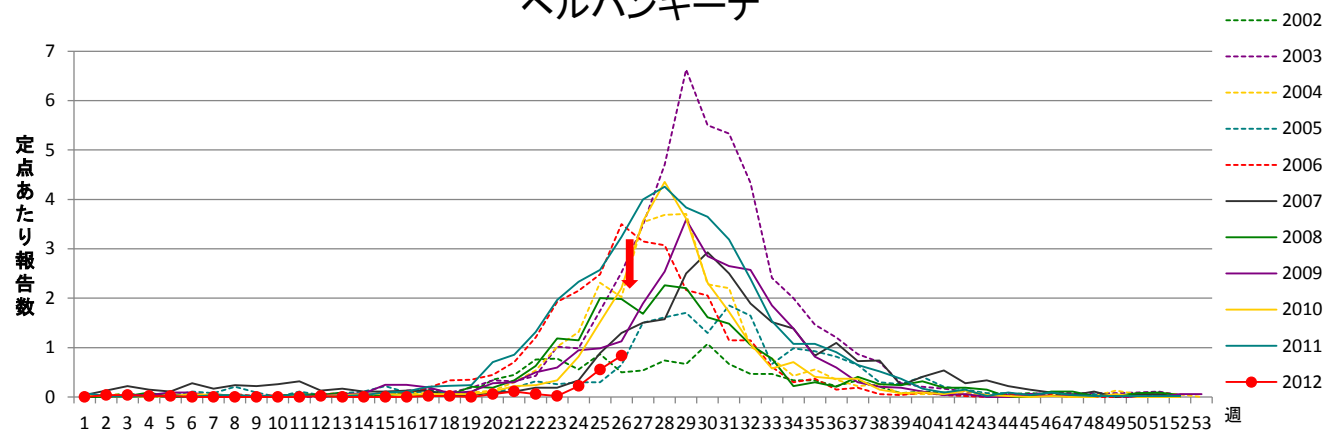
突発性発疹



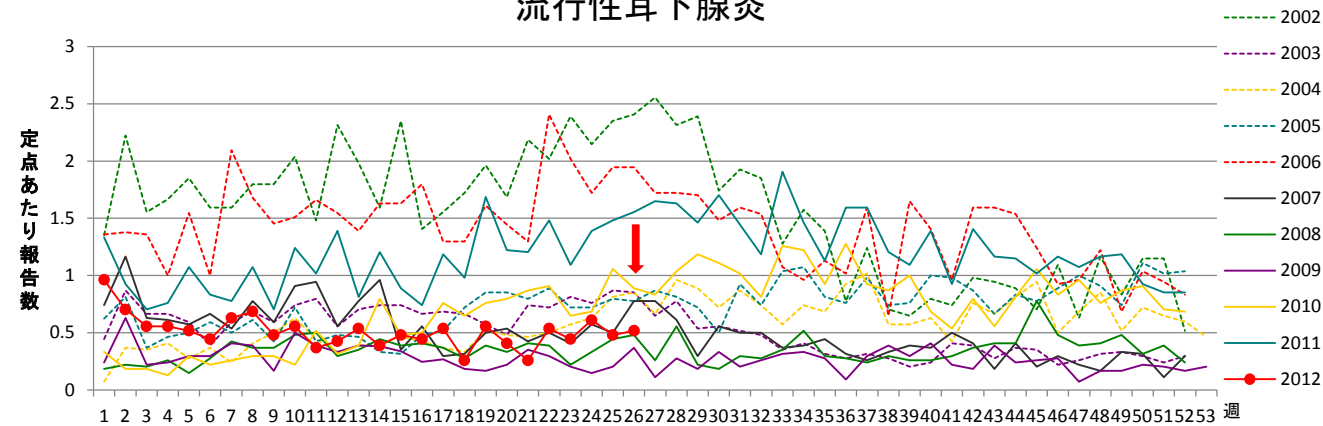
百日咳



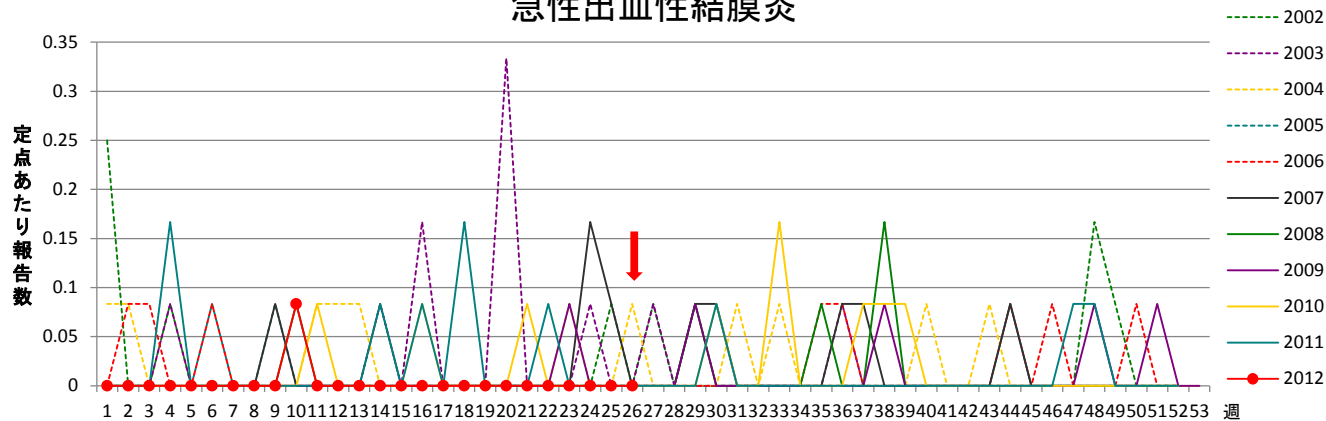
ヘルパンギーナ



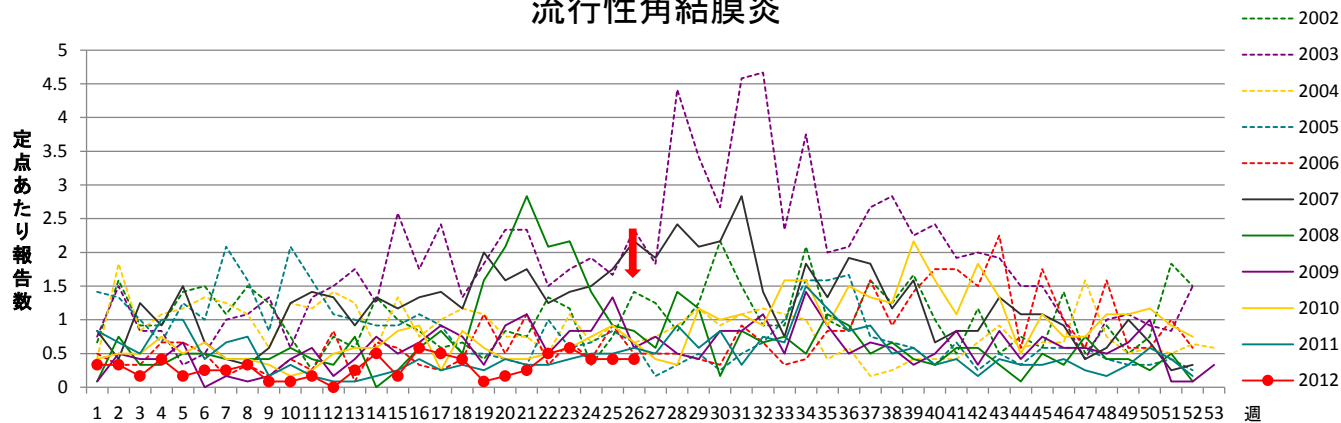
流行性耳下腺炎



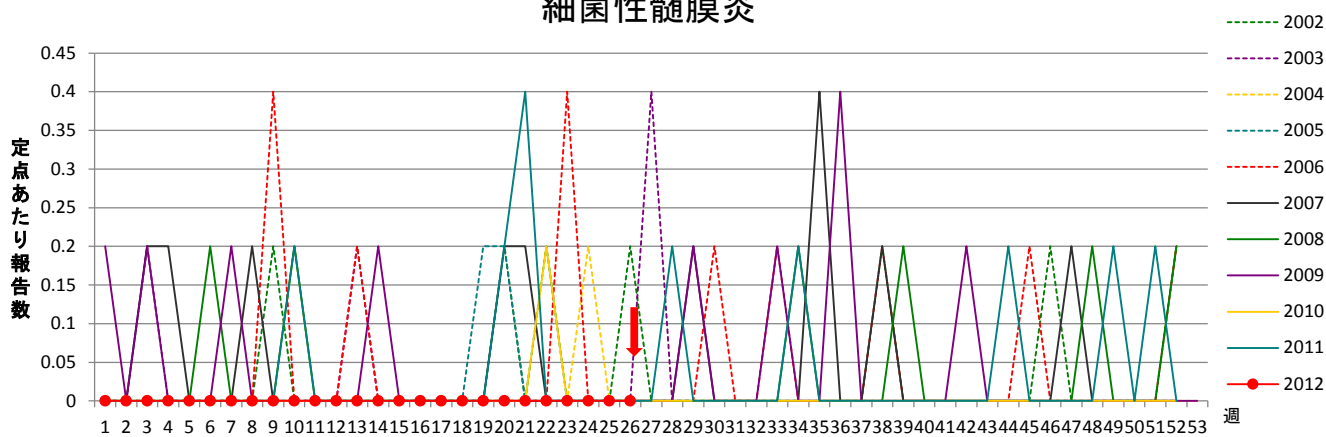
急性出血性結膜炎



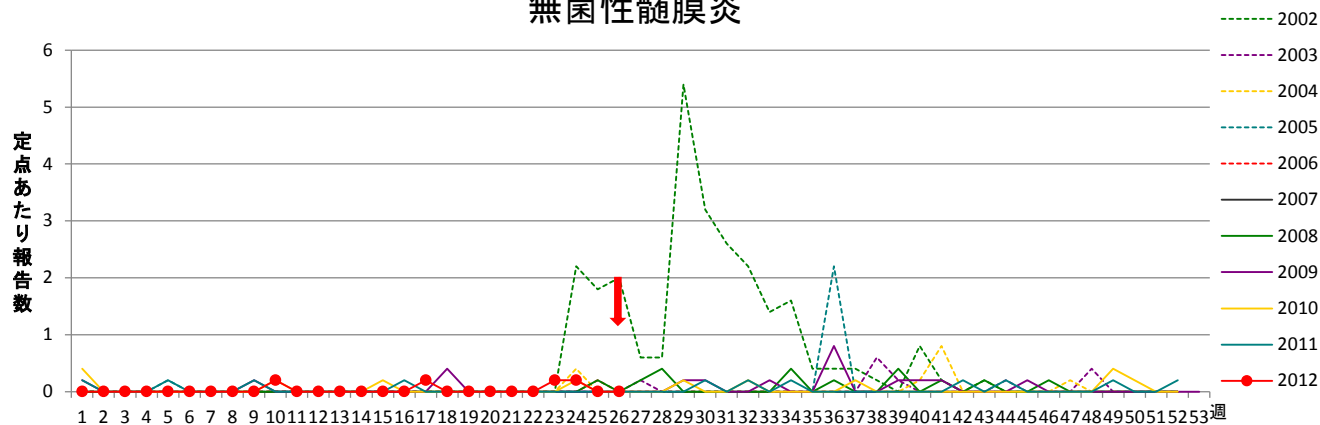
流行性角結膜炎



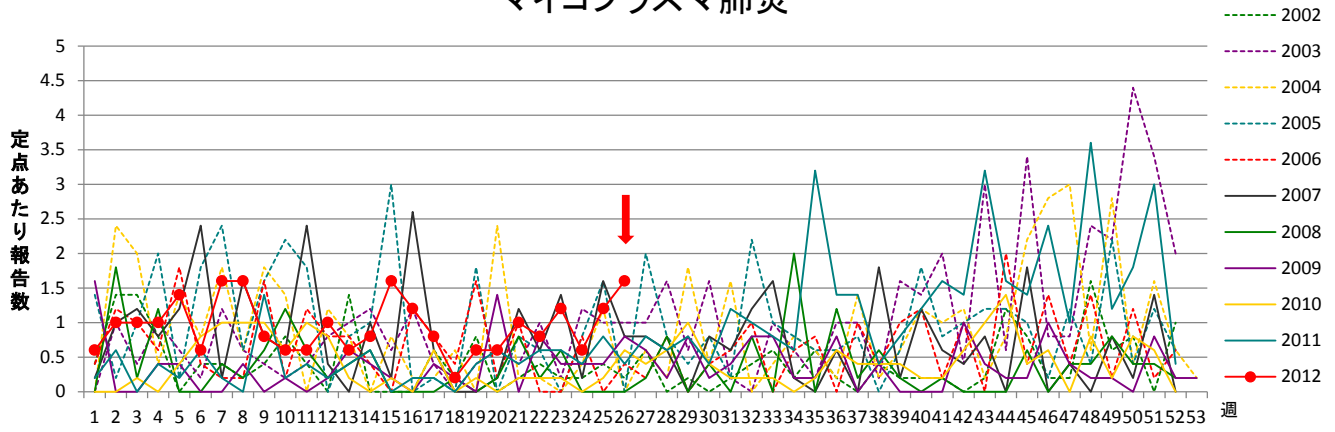
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

